

平成31年度博士前期課程（一般選抜・春期試験）問題 目次

専門試験	ページ	
文化形態論	哲学哲学史	2~3
	現代思想文化学	4~5
	臨床哲学	—
	中国哲学	—
	インド学・仏教学	6
	日本学	7~8
	日本史学	9~16
	東洋史学	17~18
	西洋史学	19~21
	考古学	22~24
人文地理学	—	
文化表現論	日本文学	25~30
	比較文学	31~32
	中国文学	33~34
	英米文学	35~36
	ドイツ文学	—
	フランス文学	37~38
	国語学	39~42
	日本語学	43~46
	英語学	47~48
	美学	49
	文芸学	50
	音楽学	51~53
	演劇学	54~55
	日本・東洋美術史	56~58
	西洋美術史	—

平成31(2019)年度

大阪大学大学院文学研究科(博士前期課程／一般選抜・春期試験)入学者選抜試験問題
文化形態論専攻 哲学哲学史専門分野 筆記試験

[問題用紙は2枚あります。]

注意 ①解答はすべて所定の解答用紙に記入すること
②問題用紙は持ち帰ること

I 以下の①～③の文章から2つを選び、それぞれ全文を日本語に訳しなさい。なお、選んだ番号を解答用紙に記入すること。

①

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

(John R. Searle, *Expression and Meaning*, Cambridge University Press, 1979, p. 67, ll. 12-26.)

② Die Untersuchungen, die wir führen wollen, erfordern eine total andere Einstellung als die natürliche, innerhalb deren naturwissenschaftliche und psychologische Erkenntnis gewonnen wird. Phänomenologie ist keineswegs Psychologie, sie liegt in einer neuen Dimension, sie erfordert eine wesentlich andere Einstellung als die Psychologie, als jede Wissenschaft von räumlich-zeitlichem Dasein. Dies auszuführen, ist eine Einleitung nötig.

Ich beginne mit einer Beschreibung der verschiedenen Einstellungen, in denen Erfahrung und Erkenntnis statthaben kann, zunächst der natürlichen Einstellung, in der wir alle leben und von der wir also ausgehen, wenn wir die philosophische Blickänderung vollziehen. Wir tun es in der Weise, dass wir die Vorfindlichkeiten dieser Einstellung in allgemeiner Weise beschreiben.

Jeder von uns sagt „ich“ und weiss sich so redend als Ich. Als das findet er sich vor, und er findet sich dabei jederzeit als Zentrum einer Umgebung.

(Edmund Husserl, *Grundprobleme der Phänomenologie 1910/11*, Martinus Nijhoff, 1977, S. 16, Z. 1-18.)

③

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

(Michel Dalissier, *En réalité: Bergson au-delà de la durée*, Édition Mimésis, 2017, p. 25, ll. 1-12.)

II 以下の語句の中から、2項目を選択し、その番号を記した上で3行程度で解説しなさい。

- 1 想起説（プラトン）
- 2 第二性質（ロック）
- 3 二律背反
- 4 イデオロギー
- 5 アフォーダンス

III 行為の正しさについて論じなさい。

平成31(2019)年度

大阪大学大学院文学研究科(博士前期課程／一般選抜・春期試験)入学者選抜試験問題

文化形態論専攻 現代思想文化学専門分野 筆記試験

[問題用紙は2枚あります。]

注意 ①解答はすべて所定の解答用紙に記入すること
②問題用紙は持ち帰ること

I 下記の設問に答えなさい。

① (英作文小論説)

科学への市民参加について、英語で論じなさい。(10行程度)

② (英語読解) 次の英文全体を、日本語に訳しなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

(Alan Irwin, *Citizen Science: A Study of People, Expertise and Sustainable Development*, Routledge, 1995, p. 1, ll. 2-11.)

II 以下の語句の中から、2項目を選択し、その番号を記した上で3行程度で説明を
しなさい。

- 1 解釈学的循環
- 2 テクノクラシー
- 3 推測と反駁
- 4 「万人の万人に対する闘争」
- 5 SDGs

III 研究の自由と規制について論じなさい。

平成31（2019）年度

大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題

文化形態論専攻 インド学・仏教学専門分野 筆記試験

[問題用紙は一枚です。]

語学辞書使用可

1 次の(a), (b) のどちらかに答えよ。

- (a) 古代インドの言語・文化と古代イランのそれらとの比較研究が、どのような成果をもたらし得るかについて、具体例を挙げながら論ぜよ。
- (b) インド仏教の研究が、「いのち」にむきあい、現代社会が直面する諸問題の解決に貢献する研究ともなり得るかについて、具体例を挙げながら論ぜよ。

2 次の項目ができるだけ詳しく解説せよ。

- 1) ソーマ
- 2) asura
- 3) 不殺生
- 4) nirvāna

3 次の文を正確に和訳せよ。

(出典：『ナラ王物語』)

tataḥ sarve mahārāja saganāḥ sahavāhanāḥ |
vidarbhān abhijagmus te yataḥ sarve mahīkṣitah ||
nalo 'pi rājā kaunteya śrutvā rājñāṁ samāgamam |
abhyagacchad adīnātmā damayantīm anuvrataḥ ||

4 次の(a), (b) のどちらかを正確に和訳せよ。

(a) (出典：『ブリハッド・アーラニヤカ・ウパニシャッド』)

janako ha vaideho bahudakṣiṇena yajñeneje. tatra ha kurupañcālānāṁ brāhmaṇā abhisametā
babhūvus. tasya ha janakasya vaidehasya vijijñāsā babhūva, kah svid eśāṁ brāhmaṇānāṁ
anūcānatama iti.

(b) (出典：『サンユッタ・ニカーヤ』)

na khvāhan tam brāhmaṇa passāmi sadevake loke samārake sabrahmake sassamaṇabrahmaṇiyā
pajāya sadevamanussāya yass' eso havyaseso bhutto sammā pariṇāmam gaccheyya aññatra
brāhmaṇa tathāgatasāvakassa vā.

平成 31 (2019) 年度

大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題
文化形態論専攻 日本学専門分野 筆記試験

[問題用紙は 2 枚です。]
(1 枚目 / 2 枚中)

[I] 次の項目から、3 項目を選んで説明しなさい。

- (1) 冊封使 (2) 亀甲墓 (3) 「土佐源氏」 (4) 『鏡後史ノート』
(5) 同潤会 (6) 山片蟠桃 (7) 「三たび平和について」 (8) からゆきさん
(9) 創られた伝統 (The Invention of Tradition) (10) ウーマンリブ

[II] 次の 4 間のうちの 1 つを選んで答えなさい。

- (1) 「他者の経験」を表現することについて、具体的な事例を挙げながら論じなさい。
(2) 近世日本の思想史上における論争を一つ取りあげ、その意義について論じなさい。
(3) 「同化」と「異化」という言葉を用いて、アイデンティティについて、具体的な事例を挙げながら論じなさい。
(4) 19 世紀後半から 1920 年代における、日本に関係する国際的な人の移動と人種差別との関係について、具体的な事例を挙げながら論じなさい。

(2枚目／2枚中)

[III] 次の文章は、Michael S. Molasky, *The American occupation of Japan and Okinawa: literature and memory* (Routledge, 1999) の一節（7頁16行目～8頁7行目）である。これを読んで、次の問い合わせに答えなさい。

問題文は著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は上記のとおりです。

1. 下線部①について、人びとはなぜ理解できなかつたのか、説明しなさい。
2. 下線部②の二つの用語について、本文を踏まえて説明しなさい。
3. 日本以外の国で「1945年8月15日」が意味するところについて、具体的な事例を挙げながら論じなさい。

平成31（2019）年度
大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題
文化形態論専攻 日本史学専門分野 筆記試験

[問題用紙は8枚です] (1枚目 / 8枚中)

【注意】設問（I）については、解答用紙は縦長に使い、横書きで解答して下さい。

(I) 外国語問題

次の英文は、1903年11月27日付ノース・チャイナ・ヘラルド紙に掲載された記事の一節である。この文章を日本語に訳しなさい。なお、原文は一部改めたところがある。[15点]

著作権に配慮して、本文は省略します。なお、出典は以下の通りです。

【出典：国際ニュース事典出版委員会・毎日コミュニケーションズ編『外国新聞に見る日本③ 1896-1905 原文編』、1992年、p.499）

(問題文は次に続く)

(二枚目／八枚中)

【注意】設問(Ⅲ)～(V)については、解答用紙は横長を使い、縦書きで解答して下さい。

(Ⅱ) 次の問いに答えなさい。

〔25点〕

古代・中世・近世・近代のそれぞれの時代における、税のあり方について具体的に述べなさい。

(Ⅲ) 次の歴史的名跡(1)～(4)のうち二つを選び、研究史上の論点をふまえて一つ説明しなさい。

〔15点〕

(1) 大嘗祭 (2) 女院領 (3) 島原の乱 (4) 米騒動

(問題文は次に続く)

(IV) 次の設問(1)～(4)のうち、二つを選んで答えなさい。

[30点]

- (1) 次の史料は、「類聚三代格」巻十九「禁制事」に所収された、貞觀九年（八六七）十二月二十日太政官符である。この史料を読んで、①～④の問いに答えなさい。なお、文字は一部改めたところがある。

太政官符

亦禁止強雇往還人并車馬事

右検案内、太政官去嘉祥一年九月廿五日下左右京職五畿内近江等国符傳、檢案内、去承和二年十月十八日符傳、威勢之輩強雇往還人馬、令民愁苦、宜嚴加禁制不得更然、若有強雇者嵯峨淳和兩院人取名申送其政所諸司諸家人於當処決笞之者、右大臣宣、如聞、諸衛府諸家人等、或追下騎人、或切落負荷、濫事強雇、每致民憲、稽之政途、深乖物情、此則有司不加檢察之所致也、宜嚴加禁制不得令然者、而近者山崎大津而津頭邊諸司諸家人妄仮威勢強雇車馬、因茲行旅之人多煩往還傭賃之輩已失活計人民之間愁苦不少此而不糺何謂皇憲、中納言從三位兼行左近衛中將藤原朝臣基經宣、自今而後一切禁斷、若有強雇者、重禁其身具狀言上、

貞觀九年十一月廿日

①傍線aの引用はどこまでか、最後の漢字四文字を記しなさい。

②傍線bの引用はどこまでか、最後の漢字四文字を記しなさい。

③傍線cを漢字・平仮名交じりの書き下し文にしなさい。

④傍線dを漢字・平仮名交じりの書き下し文にするとともに、現代語訳しなさい。

(問題文は次に続く)

(四枚目／八枚中)

(2) 次の史料は、宮内庁書陵部編『圖書叢書叢刊 九条家本玉葉八』(明治書院、1901年)からの引用である。『玉葉』寿永二年(一一八三)閏十月二十二日条を読んで、①～⑥の問いに答えなさい。

著作権に配慮して、本文は省略します。なお、出典は以下の通りです。

【宮内庁書陵部編『圖書叢書叢刊 九条家本玉葉八』(明治書院、1901年) 二六三頁】

- ①『玉葉』の記主について人名を答えなさい。
- ②傍線a「宣旨」は通常何と呼ばれているか。その名称と歴史的意義について記しなさい。
- ③傍線bを現代語訳しなさい。
- ④傍線cを漢字・平仮名交じりの書き下し文にしなさい。
- ⑤傍線dを漢字・平仮名交じりの書き下し文にしなさい。

(問題文は次に続く)

(五枚目／八枚中)

(3) 次の史料は、佐治家文書研究会編『佐治重賢氏所蔵 小堀政一関係文書』(思文閣出版、一九九六年) 所収のものである。この史料を読んで、①～④の間に答えて下さい。なお、出典における傍注などを一部省略したところがある。

著作権に配慮して、本文は省略します。なお、出典は以下の通りです。

【寛永八（一六三一）年六月一四日付小堀政一書状（佐治家文書研究会編『佐治重賢氏所蔵 小堀政一関係文書』、思文閣出版、一九九六年、七二一頁）】

- ① 傍線 a 「西御所様」とは誰と誰のことを指すか。漢字で答えなさい。
- ② 傍線 b 「院之御所」の「院」とは誰のことを指すか。漢字で答えなさい。
- ③ 傍線 c を現代語訳しなさい。
- ④ 傍線 c について、なぜ小堀政一は傍線 c のような間に合わせと指示を小堀權左衛門に對しておこなつたのか、その理由を本史料の内容もふまえて説明しなさい。

(問題文は次に続く)

- (4) 次の史料は、ロンドンにいた井上馨が木戸孝允に宛てて送った一八七六年一〇月九日付書簡の一節である。この史料を読んで、①～④の間に答えてなさい。

秋冷相催候得共益御多祥御精勤奉賀候。生も無事罷在候間御放處可被下候。追々寒氣に差向ひ候間別て御自病御保養第一奉存候。日々凡ニマイル位は必御運動被成度、日々御出勤何卒馬車よりは御歩行之方可然と奉想像候。生も此度は嫡子共に至て謹身、実は數多之書生も滞在候而成丈生之申事信用為仕度候故實に謹身と極め、当節は住居も落着候故日夜讀書に勉励仕候間、此度は屹度実効を願し可申候。福沢書生三人罷在候処至て行跡等も克く勉強罷在申候。人物も宜敷、且從来在日本之時はフリイ計をロジカルに唱候者に候処、近來は大に悔恨候而至てコンソルベーチープと相成、民撰議院杯も中々被行難き事も相分り、フラクチスに無くては國の第一たるウエルズを増殖する等不出来と云説を起し、毎サチューテー毎に生の居処に集合候てポリチカルエコノミーの書を輸讀仕候而、夫より其書を日本之實事に宛はめ論し大なる益と奉存候位に候故、眞之學問を志す人又真に憂國心ある人は追々コンソルベーチーフに趣き、中々相樂み居申候。愈以急進する事は不宜様相考へ、併如當時中央そ集權は實に大害を生し可申、兩條中間之御自論愈以御同意仕候。必々エネルギーを基本と被成何も御堪忍被成候而、責て御自論之一部とて被行候様成行候時は、実将来之幸福と奉存候間、何分にも少しお事にて御退身論發し候事如何にも遺憾至極に御座候。重而御忠告仕候。

一、^b標之決未も愈以御発しに相成候段被仰越、先善惡之方法は打置至極宜敷事と奉存候。然るに華族之分は是非共売買免許無之様御禁令相成度、何卒日本之古風を存レジグニチーを保存する事第一と奉存候。如米国すら家柄を論じ如英は尚信之候故、愈以日本も帝国之体裁たれば王室を保存するの一端とも相成候間、御注意第一と奉存候。尤士族之方は敢て論無之事と懸考仕候。此辺は一口三条公迄も申上置候。

- ①史料中の「」で括つた部分について、その内容を史料の記述に即してまとめてなさい。
②傍線 a に関する、一八七八年に行われた地方制度改革について知ることころを述べなさい。
③傍線 b が指している法令の名稱を記し、その内容と影響について知ることころを述べなさい。
④傍線 c について、その内容を史料の記述に即してまとめてなさい。その際、当時の華族の構成員について触れること。

(七枚目／八枚中)

(V) 次の設問(1)・(2)のうち、一つを選んで答えなさい。

[15点]

(1) 次の古文書を漢字・平仮名交じりの書き下し文にしなさい。解答にあたっては、できるだけ原文にしたがつて改行すること。

著作権に配慮して、本文は省略します。なお、出典は以下の通りです。

【永徳四（一二八四）年二月五日「左衛門尉守政奉書」（人間文化研究機構国立歴史民俗博物館編『企画展示　日本の中世文書』、歴史民俗博物館振興会、二〇一八年、七一頁上段）】

（問題文は次に続く）

(八枚目／八枚中)

- (2) 次の古文書の見取書（くずし字をそのまま現在の文字に書きかえて写すこと）を記しなさい。なお、原文にしたがつて改行すること。

१०८ विष्णुवाचोऽस्मद्ब्रह्म विष्णु विष्णु विष्णु
विष्णु विष्णु विष्णु विष्णु विष्णु विष्णु विष्णु
विष्णु विष्णु विष्णु विष्णु विष्णु विष्णु विष्णु
विष्णु विष्णु

(大阪大学所蔵 近世古文書)

(2枚中の1枚目)

平成31（2019）年度

大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題
文化形態論専攻 東洋史学 専門分野 筆記試験

【問題用紙は2枚です。I・II・III・IVについて、それぞれ別の解答用紙を使用してください。】

I 英語問題

次の文章を日本語に訳しなさい。なお、文中の注番号については無視すること。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

【Michael Puett, “Forming Spirits for the Way: The Cosmology of the Xiang’er Commentary to the Laozi,” *The Journal of Chinese Religions* 32, 2004, p. 1, ll. 6 – 19】

注：Xiang’er Commentary: (老子) 想爾註 Great Peace: 太平 Celestial Masters: 天師 (道)

II 論述問題

次の3問より1問を選択し、日本語で答えなさい。

1. アジア史における「法」のもつ意味と機能について、①裁判制度との関連、②西洋法との比較、を念頭に置きながら、特定の事例を挙げて述べなさい。
2. 宗教組織が国家や社会に対して如何なる役割を果たしてきたか、アジアにおける任意の地域を選んで述べなさい。
3. 火薬兵器が戦争や国家・社会や貿易のありかたをどう変えたか、前近代アジアの任意の地域を選んで述べなさい。

(2枚中の2枚目)

III 漢文問題

次の漢文は、清代の王鳴盛が著述した『十七史商榷』卷六十四・南史合宋齊梁陳書・「淵明改深明」の全文です。これを読んで、下の問い合わせに答えなさい。

陶潛字淵明，或云字深明，名元亮。 ^① 此南史文，乃校書者改，其謬不可勝言。宋書則云，
陶潛字淵明，或云淵明字元亮，其上周續之傳，
續之入廬山，時劉遺民遁迹廬山，陶淵明亦不
應徵命，謂之尋陽三隱。 ^② 然則本字淵明，後以
字行。故又字元亮，甚顯白。李延壽避諱 ^③ 改深
明，并續之傳，亦改深明，後之校南史者既改
為字淵明矣。此下兩句，延壽原本，必是或云
深明，字元亮， ^④ 乃又妄改如右。展轉惑人，校
者之謬至此。

【語註】

周續之（377-423）：字は道祖、南朝宋時期の人物。『宋書』卷93に立伝。

劉遺民（352-410）：もとの名は程之、字は仲思、彭城（現江蘇省銅山県）の人。

顯白：明白であること。

李延壽：唐代の史家、『南史』『北史』を編纂。

問1 傍線部①をすべてひらがなで書き下しなさい。

問2 傍線部②を現代日本語に訳しなさい。

問3 傍線部③について、李延寿が深明と改めた理由を答えなさい。

問4 傍線部④について、「妄改」の過程を、本文を踏まえて説明しなさい。

IV 基礎事項問題

次の(a)～(d)の事項について知るところを、それぞれ2行程度で簡潔に述べなさい。

- (a) ウイグル
(c) 五・四運動

- (b) シャリーア
(d) 宋会要輯稿

平成31（2019）年度

大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題

文化形態論専攻 西洋史学専門分野 筆記試験

[問題用紙は3枚です。]

設問I 次の①、②のうち、いずれか1問を選び、解答しなさい。

- ① 宗教と世俗（国家）との関係について、具体的な事例をひとつ挙げて論じなさい。
- ② 今年は国際連盟設立から100周年にあたる。連盟の果たした歴史的役割と功罪を論じなさい。

【注意】 解答は、別紙解答用紙に問題番号を書いてから記入しなさい。また、各問題の枝間の番号も記すこと。

設問 II、別紙の英語史学文献問題を読み、その設問に解答しなさい。

【注意】 解答は、別紙解答用紙に問題番号を書いてから記入しなさい。また、各問題の枝問の番号も記すこと。

英語史学文献問題

次の英文は、Herbert Butterfield, *The Origins of History*, Edited with an Introduction by Adam Watson (London: Eyre Methuen, 1981)からの抜粋 (pp. 17-21) である。これを読んで、問1～問3に答えなさい。

- 問1 條線で囲まれた①～③を日本語に全訳しなさい。
問2 下線部 a) は歴史叙述にどのような影響を与えたか答えなさい。
問3 下線部 b) はなぜそうなると考えられるか。簡潔に記しなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。

平成31（2019）年度

大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題
文化形態論専攻 考古学 専門分野 筆記試験

[問題用紙は3枚です]
(1枚目／3枚中)

問1 日本における明治時代以降の埋蔵文化財保護制度の歴史について、その社会的背景も含めて詳しく述べなさい。

問2 大規模な土木工事と社会や国家との関係に関して、日本・東洋・西洋の考古学的事例を取り上げながら、詳しく論じなさい。

問3 次の英文を読んで、以下の問い合わせに答えなさい。

- (1) 枠内を日本語に訳しなさい。
- (2) 下線部に記された4つの社会の諸特徴を詳しく述べなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

Matthew Johnson, 1999, *Archaeological Theory: An Introduction*, Blackwell Publishers, p.139, l.39 - p.14, l.15.

(2枚目／3枚中)

問4 次の英文を読んで、以下の問い合わせに答えなさい。

- (1) 全体を日本語に訳しなさい。
- (2) radiocarbon dating の導入は、世界各地の先史考古学の編年体系に根本的な再検討をもたらした。
そうした事例を日本及びヨーロッパにおいて1つずつあげ、詳しく述べなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

W. Ashmore and R. Sharer, 2000, *Discovering Our Past (3rd edition)*, Mayfield Publishing, p.164,
ll.4-13.

問5 次の英文を読んで、以下の問い合わせに答えなさい。

- (1) この英文の著者とその主な業績について説明しなさい。
- (2) 枠内を日本語に訳しなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

Patterson and C. E. Orser Jr., ed., 2004, *Foundations of Social Archaeology*, AltaMira Press, p.196,
ll.12 - 25.

(3枚目／3枚中)

問6 次の語句等について、それぞれ詳しく説明しなさい。

- (1) 上黒岩遺跡
- (2) 井寺古墳
- (3) 乾陵
- (4) 青谷横木遺跡
- (5) Hallstatt

平成三一（一〇一九）年度

大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題

文化表現論専攻 日本書専門分野 筆記試験

【問題用紙は6枚です】（1枚目／6枚中）

□ 一 次の文章を読んで、後の間に答えなさい。（この問題について解答用紙を一枚用い、縦書きにすること）

今は昔、河原院は融の左大臣の家なり。みち



尽して住み給ひける。大臣失せて後、宇多院（注1）には奉りたるなり。①延喜の御門たびたび行幸ありけり。

まだ院住ませ給ひける折に、夜中ばかりに、西の対の塗籠（注2）をあけて、そよめきて人の参るやうに思されければ、見させ給へば、ひの装束（注3）うるはしくしたる人の、太刀はき、笏取りて、一間ばかり遅きて、かしこまりてゐたり。「あれは誰ぞ」と問はせ給へば、「この主に候ふ翁なり」と申す。「融の大臣か」と問はせ給へば、「しかに候ふ」と申す。「さはなんぞ」と仰せらるれば、「②家なれば住み候ふに、おはしますがかたじけなく所狭く候ふなり。いかが仕るべからん」と申せば、「それはいといと異様の事なり。③故大臣の子孫の、我に取らせたれば、住むにてぞあれ。わが押し取りてゐたらばこそあらめ、れも知らず、いかにかくは恨むるぞ」と高やかに仰せられければ、かい消つやうに失せぬ。

その折の人々、「なほ御門は④かたことにおはします者なり。ただの人はその大臣にあひて、さやうにすくよがにはいひてんや」とぞいひける。

（『宇治拾遺物語』）

注1 宇多院 宇多上皇のこと。

注2 塗籠 周囲を壁で塗り込め、妻戸で出入りする部屋。寝室や物置として用いた。

注3 ひの装束 公事の際の正装である東常姿。

問一 Aの部分の本文（二行分）を翻字しなさい。なお、改行は原文に従うこと。

問二 傳線部①「延喜の御門」について知るとところを述べなさい。

問三 傳線部②を現代語訳しなさい。

問四 傳線部③を現代語訳しなさい。

問五 傳線部④「かたことにおはします者」とはどういう意味だと考えられるか、理由とともに考え方を述べなさい。

〔二〕 次の文章は、シェークスピア原作「シェリias・シーザー」を坪内逍遙が邦訳した『自由太刀餘波観鋒（じゆうのたちばこりのきれあらじ）』（明治十七（一八八四）年）より、「附言」および本文の第一幕第二場冒頭部の引用です。これを読んで、後の問い合わせに答えて下さい。
（この問題について解答用紙一枚を用い、縦書きにすること）

原本はもと臺帳の粗なる者に似てたゞ臺辭のみを用ひて
織りなしたる者なれば所謂戯曲にあらず、この院本と
は全く體裁を異にしたる者なるを今此國の人爲めに之を
多様の意味を以てし見ん人これを諭せよ
之にしたがひ臺辭にして解し易き所と又之に從ふ蓋し原
本乃意を失はざらんを力むるのみ原承此國の梨園子弟に
興へて直ちに之を演戯させんとにはあらず其眼の人は院本
は規矩に戻れるを笑ふ勿れ原本の意は成るべく失はざら
んを力むるといへども中には彼我思想の異なるまゝにい
かやうにも譯しかたき條なきにあらず、それらは譯者の意
匠をもててござらに取捨しえは骨を換へたるものあり、かく
る類てとに滑稽詰體の條下に多様し原本と比べ見ん人の
篇中の人名の真名をもて撰められとも只見出しに便なら
んを要するのみ、され共は所謂湯桶讀法なるもあり萬葉訓に似
たるもあり幸に答ひる勿れ

逍遙遊人志るす

注 院本……浮瑠璃の詞章全編を刊行したもの。丸本。 具眼の人……見識のある人。

當時羅馬の競馬會にて走はれ盤競走の行體を以てして輸贏を擇ける貴人紳士少なるを以てせり。されどこれは決して走るを厭する者少なる。

第一 勘 第二 勘

第二場 羅馬公園前乃場

あこは羅馬の公園前羅馬の國の大總裁ケイヤ不ジユリヤス御威差がさしに猛き奔獣を攻滅して凱旋乃折又あひたる吉例の競走を遊覧せんと最愛の夫人輕春尼娃議官マアカス舞藝多須マアケ港尾尼加須可軒志亞須支施若等を前後左右に從へて四方に聞ゆる道樂の響の中よしづくと數萬乃羅馬人民を眼下に見下し驕りてゆく威風の程乎、上もあき御威差やを立停り御軒尼娃と鶴の一聲加須可ひ心得大音互加御威差殿下の御發語あるぞ暫し鳴物をやめ候へシ！シツト乃聲令の聲諸共ふ肅然より御威差は優然と御イイヤ喧輕春尼娃輕ハッ御承へ申聞そハ餘乃義にあらず、予今志を宇内得て百事意の如くなりと雖も只憾らしくは不幸にして尙一人の子を得る能はず然るに予督て老長に聞たるに世に石婦と稱する婦人も走競に壯士輩が携へ用ゐる革紐を肌に觸るれバ疑なく必ず懷妊なぞとかや幸ひ只今公園にて神へ手向の競走を港尾尼が勵むる間だ其方も職場に立出て、彼れが身近う立て居やれ、コリヤ港尾尼ふ身もまた此意を體してはしりくらべを勤め吳りやれ、心得たるかとありければ、港尾尼頭を上げ港ハ、畏つて御座り侍る、今海内に御威光輝き天下に敵なく神にひとしき、御威差殿下の御詫とあらば、たゞへいかなる事なりとも、誰か違背仕らん心得まして御座り侍る。

問一 「附言」の一重傍線部「湯桶讀」とはどうなものか、右の本文から例をあげて説明しなさい。そのうえで、国語史における湯桶読みの歴史を記しなさい。

問二 「附言」の傍線部「院本體に譯せしかば」について、次の間に答えなさい。

(一) 本文を読み、院本と類似する点を文体の面から指摘しなさい。

(二) 本資料の国語史上の位置づけを説明しなさい。

問三 「附言」に示されている翻訳の基本方針を簡潔にまとめなさい。

〔三〕 次の文章は、島木健作の小説『生活の探求』の一部です。太宰治直後に肺炎になってしまった杉野駿介は、退院後、病後の養生のために、田舎の農家に帰つて来ています。これを読んで、後の間に答えて下さい。

(1)の問題について解答用紙一枚を用い、縦書きとする(1)

〔出典は『生活の探求』河出書房、一九三九年一月）一〇／一五頁〕

杉野の家は、山裾の、部落の他のどの家よりも高らかに位置してゐる。その家の裏手の井戸も、深く掘られて、ほとんど四間に近い。筋のいい水脈に掘りあて、山底の水を集め、清冽玉の如くであつた。水の味がじと云つて、濁ぬなじものはなかつた。夏には、かなり離れたところからも、バケツや葉籠などを下げて、飲み水や浴し水をもらひに來た。いつとはなしに、誰が名づけたといふんぢやないか、その井戸は、「玉水の井」と呼ばれ、人々を潤して來たのであつた。玉水の井が、常に増して人々に多くの恵みを垂れるのは、丁度今年のやうに雨量の少い時であつた。どの家の井戸も水が涸れて、底の泥が立つやうな時、玉水の井だけは、依然、清らかな水を豊かに湛へてゐた。飯をしけける時、輪番で風呂を立てるその番が廻つて來た時、近所の人々は、玉水の井の存在の故に助かつた。ところが、その井戸が、ここ三四年來、夏期には、目立つて水の出がわなくなつて來たのだつた。そしてそれも無理がなうと云へた。この井戸は今から五十年も昔、駒平の父の代に掘り、その頃少年だった駒平はその仕事を手傳ひ、それ以後、掘り下げるこなうとも古さだつたのだから。それだけの年月の間には、水脈にも變化がないとは云へなからう。そしてこのことは駒平を殊のほか悲しませた。この慈愛な老人は、今までのやうに多くの人々に奉仕し、彼等を喜ばし得ぬことを悲しんだのである。杉野の家は、以前は村での有力者で、駒平の父は地方の政治に關係し、村での世話役的な仕事にも熱心だつた。

しかし、駒平は父から、その名と共に少なからぬ借財をも受け繼いだ。もともと參へはなかつた持地をそのために處分し、分家した兄弟達にも土地を割き、彼自身は普通一般の働く農民として、目立たぬ存在になつて行つたが、父の代の我が家を知つてゐる彼は、村のために役立ち得ぬ自分を寂しく思ひ、さういふ彼にとって、玉水の井は實に小さな一つの慰めであつた。降雨の少いことでは國中にも名があり、川らし川の無いこの地方は、少しの日照りにもすぐ水が涸れる。夏の日、裏の井戸に近所の人々が連つて來るのを見る駒平は樂しがつた。

「俺らの生きとるうちの仕事の一つに、どうあつてもこの井戸は俺らの手で掘つ返さにや。」

出がわくななり、溝がさな水を見ては、駒平はさう云ひ云ひした。

しかし、同じ仕事に向ふ駿介の熱心さの出どころは駒平とはちがつてゐた。彼は何も井戸掘りでなくともよかつた。彼の家の春は近く刈られる。そのうちには煙草の葉の乾燥も始まる。彼はそのどつちにも自ら参加しようとつてゐる。彼は今窮屈に肉體的な勞働を欲してゐた。彼は、心身がある一つの新鮮に向つて統一された狀態にあることを、張り切つた力の感じ、充満感と云つたやうなものを、深い自覺に於てといふよりは、ほとんど本能的な欲求として、渴くやうな氣持で求めてゐたが、さういふ彼の求める最も端的に應んでくれるもののが肉體的な勞働であらうといふことは書ける。心身の力を出し切つて、走りしながつかつて行けるやうなもの、さういふ機會を彼は欲してゐた。それは單に、病後の体調にも體からはじめた若い肉體の、生理的な要求に過ぎないものであらうか。それはたゞじめゆつたりう。だが同時に、それはもつと深じところに根

をしておゆるものだつた。彼は自分の過去に誤解しきつとしてゐた。脱出の道のない沼澤のやうな観念の世界にはまり込んで、脱出道がなまじらんとのなかにかくて陥落してゐたやうな過去に別れようとしてゐた。他人の生きた経験をそのまま織り所とするわけにはいかぬ、先づ自分自らがほんとうに社会を生きて見なければならぬ。彼はそのやうな一般的な意志を持ち始めたが、もしもこれが、今から七八年も前であつたなら、新しい道は具體的な、明確な道を取つて彼の前に開けたであらうが、今はやうはいかなかつた。彼の歩みは、何か生活的なるの、實質的なもの、中身のわかつし語りでゐるもの、出版物なもの、建設的なもの、上層かずにじっくり地に足のついたもの、からくも内容一般に聞く心を惹かれるもの、さはめて漠然とした抽象的な趣において始もられたのぢや。やうじれりいが時、彼の村の生活は彼の前に展开了のである。それは新鮮な魅力だつた。村の生活のどんな小さな断片でもが、生きとした感情を彼に呼びたがきすにはゐなかつた。

「掘り下げる、底を深くするだけやつたら、大して過作やならないが、それにやまく、井戸側の石をすつかり取り拂つて、それからまたそれをもじもじ通り積み上げにやまくやんの」

四隅からの深さの井戸側は、全部、おおむねま形の大木を自然石でさうりながら山に沿つてあつた。

「そのやうにしてかねにや、だめだめやうが。」

「ああ。井戸の掘り下には、まつ井戸側を外してからかかるのがまつまつとやつてゐるもんがや。」

「はう。」

「木端して、側の石をそのままじしめてかかるものやがるいはなし、やつたら、掘り下げ中に側が崩れ落ちてからに、底で作業中の者が生き埋めにならへぬ腰ひぐのや。」
「ああ、成程な。」

「やんずん掘り下げてたへやうが。こんなで底が深くなるつていひは、底も、側を固むじる所との間に、それだけ隙間が出来るとこやんへやうが。側を支くじるのは底のやけにな。その隙間を持つて来て、井戸側せんたりの重みが上からずんじのしかかる。一だまくやまくやうが。俺らなぞは昔からそんな腰ひぐ、たゞかんに見ゆし腰ひぐ。」川井壁に前に、元山(村)の八田の皇子が難きたやうにつぶれ死んだのをやうやうにそれや。井戸掘りは土質については業じるものだが、後で話を聞いたら、八田のじいさんはし砂地おやつたやうな。それがやだまらんわ。年寄りが知らん筈なし。はたして年寄りが町を出てゐる間にやつたこゝんじがやつた。」

「つかし、そり土質ひぐ腰ひぐだら」と、駒平は續めた。「つかひだらさやねや。つかひは粘土質の粘土おやからだ。土からひぢらねやから萬々なからいじは思ふんやねやが……」

そして、おつと着くんやだ。

筋肉をつたはて流れの井が、壁の凹みにたまつたのを、彼は大きな手の平ではじんだ。はだけた胸は卓上へほど厚くがひしとひしとれるが、やや柔らかんだ感じの皮膚の上には、若の黒じみが駆々とかられていた。

② もがく彼は心を決したよしと云つた。

「それを見るかなあ、おもむり10°今井いわばく脇ひで、一年一年のほんのうかる、彼の心をめぐる年をもつ、おのたの腰の損傷かな。そのうちに、この何時、何時か想ひて医師立派にやうになるかも知れたひつかうだ。我が手に入れるが出来んといふんじにならぬか、未だおどろひ心残りぬけだ。」

問I 傷縫部①について 駿介と鶴平の「熱心での出迎い」のちがいやわかるかと説明しなれ。

問II 傷縫部②について どのよつた状態を出すのが、素人を述べなれ。

問III 傷縫部③について 鶴平は熱心であるが、どのよつぱり人に見えていたのか、素人を述べなれ。

平成 31 (2019) 年度
大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題
文化表現論専攻 比較文学専門分野 筆記試験
[問題用紙は 2 枚あります]

1 以下の英文を読んで問い合わせに答えなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。出典は次のとおりです。

David Harvey, *The Condition of Postmodernity: an Enquiry into the Origins of Cultural Change* (Oxford: Blackwell, 1990), p.272, l.2-l.44 です。

(A) 第2段落すべてを日本語に訳しなさい。

(B) 下線部について具体的な事例を挙げて説明しなさい。

2 以下の英詩とその翻訳とを比較し、韻律などに注記したうえで論じなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。出典は次のとおりです。

南日恒太郎『英詩藻鹽草』(北星堂書店, 1916), pp.26-27 です。

3 異文化表象をめぐる比較文学研究について、主な研究の歴史を整理し今後の課題を論じなさい。

平成31（2019）年度

大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題
文化表現論専攻 中国文学専門分野 筆記試験

[問題用紙は2枚です]

I 次にあげるのは元好問の詞である。これを読んで、後の問い合わせよ。

【醉花陰】

候館青燈淡相對夜迢迢無奈掩淚惜分飛好夢空回留得閒愁在○同心易綰雙羅帶只連環難解且莫望歸鞍盡眼西山人更西山外

〔注〕

醉花陰——雙調五十二字前後段各五句三仄韻

問1 注にしたがって上記【醉花陰】を断句し、押韻について説明せよ。

問2 上記【醉花陰】を日本語に訳せ。

問3 上記【醉花陰】の特徴を論じよ。

問4 元好問について知っていることを述べよ。

II 次にあげる甲・乙ふたつの文章を読んで、後の問い合わせよ。

【甲】

臣聞(a)先王之時，一道德，同風俗，士大夫無意於爲文。故六藝之文，事詞相稱，始終本末，如出一人之手。後世道術爲天下裂，士大夫始有意於爲文。故自周衰以來，作者班班，相望而起，奮其私知，各自名家。然總而論之，未有如韓愈者也。

何則，夫所謂文者，有論理之文，有論事之文，有叙事之文，有託詞之文，有成體之文。探道德之理，述性命之精，發天人之奧，明死生之變，此論理之文，如列禦寇莊周之所作是也。別白黑陰陽，要其歸宿，決其嫌疑，此論事之文，如蘇秦張儀之所作是也。考同異，次舊聞，不虛美，不隱惡，人以爲實錄，此叙事之文，如司馬遷班固之作是也。原本山川，極命草木，比物屬事，駭耳目，變心意，此託詞之文，如屈原宋玉之作是也。(b)鈎列莊之微，挾蘇張之辯，據班馬之實，獨屈宋之英，本之以詩書，折之以孔氏，此成體之文。韓愈之所作是也。蓋前之作者多矣，而莫有備於愈，後之作者亦多矣，而無以加於愈。故曰，總而論之，未有如韓愈者也。

然則列莊蘇張班馬屈宋之流，其學術才氣，皆出於愈之文，猶杜子美之於詩，實積衆家之長，適當其時而已。昔蘇武李陵之詩，長於高妙，曹植劉公幹之詩，

長於豪逸，陶潛阮籍之詩，長於冲澹，謝靈運鮑昭之詩，長於峻潔，徐陵庾信之詩，長於藻麗。於是杜子美者，窮高妙之格，極豪逸之氣，包冲澹之趣，兼峻潔之姿，備藻麗之態，而諸家之作，所不及焉。(c)然不集諸家之長，杜氏亦不能獨至於斯也。豈非適當其時故耶。

孟子曰，伯夷，聖之清者也，伊尹，聖之任者也，柳下惠，聖之和者也，孔子，聖之時者也。孔子之謂集大成。嗚呼，杜氏韓氏，亦集詩文之大成者歟。

(秦觀《韓愈論》)

【乙】

(d)韓退之以爲文人則有餘，以爲知道則不足。何則，文章自東漢以來，氣象則已卑矣。分爲三國，又列爲南北。天下大亂，士氣不振，而又雜以南蠻輕浮靡漫之風，亂以西北悍魯鄙悖之氣。至于唐而大壞矣。雖人才衆多如貞觀，風俗平治如開元，而惟文章之荒，未有能振其弊者。愈當貞元中，獨却而揮之，上窺典墳，中包遷固，下逮騷雅，沛然有餘，浩乎無窮。是愈之才有見于聖賢之文，而後如此。其在夫子之門，將追游夏而及之，而比之于漢以來齷齪之文人，則不可。

然則愈知道歟。曰，愈未知也。(e)愈之原道曰，博愛之謂仁，行而宜之之謂義，由是而之焉之謂道。果如此，則舍仁與義而非道也。仁與義爲定名，道與德爲虛位。道有君子，有小人，德有吉，有凶。若如此，道與德特未定，而仁與義皆道也。是愈于道，本不知其何物，故其言紛紛異同而無所歸。而獨不知子思之言乎。天命之謂性，率性之謂道，修道之謂教。曰性曰道曰教，而天下之能事畢矣。禮樂刑政，所謂教也，而出于道。仁義禮智，所謂道也，而出于性。性則原于天。論至于此而足矣，未嘗持一偏，曰如是謂之道，如是謂之非道，曰定名，曰虛位也。則子思實知之矣。愈者擇焉而不精，語焉而不詳，而健于言者歟。

(張耒《韓愈論》)

- 問1 下線部(a)を日本語に訳せ。
- 問2 下線部(a)はどのようなことをいうのか、分かりやすく説明せよ。
- 問3 下線部(b)を日本語に訳せ。
- 問4 下線部(c)を日本語に訳せ。
- 問5 甲の文章は韓愈についてどのようにとらえているのか、分かりやすく説明せよ。
- 問6 下線部(d)を日本語に訳せ。
- 問7 下線部(e)を日本語に訳せ。
- 問8 乙の文章は韓愈の道論についてどのようにとらえているのか、「子思」の言葉も踏まえながら分かりやすく説明せよ。
- 問9 甲・乙ふたつの文章を比較しながら、それぞれの韓愈認識の特徴について自由に論じよ。

平成31（2019）年度

大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題

文化表現論専攻 英米文学専門分野 筆記試験

[問題用紙は4枚です。]

(1枚目／4枚中)

★一題ごとに別の解答用紙を用い、問題番号を記入すること。

1. 次の英文を読んで、下の設間に答えなさい。

※著作権に配慮し、問題文は省略します。

(1) 下線部（イ）を日本語に直しなさい。

(2) 下線部（ロ）が指す内容を、日本語で説明しなさい。

(3) 第2段落の内容を、日本語で要約しなさい。

【出典】Mary Klages. *Literary Theory: A Guide for the Perplexed.* (New York: Continuum International Publishing Group 2006) 154 頁 21行～155 頁 2行

2. 次の英文を読んで、以下の設間に答えなさい。

※著作権に配慮し、問題文は省略します。

(1) この小説の三人称語りの特徴を述べなさい。

(2) 下線部（イ）の意味を物語的特徴に照らして説明しなさい。

(3) 下線部（ロ）を日本語に直しなさい。

【出典】Howard Jacobson, *The Finkler Question.* (London: Bloomsbury Publishing, 2010) 3 頁 1行～28行

3. 次の詩を読んで、以下の設間に答えなさい。

※著作権に配慮し、問題文は省略します。

- (1) この詩の第2連を日本語に訳しなさい。
- (2) この詩の形式について、日本語で評釈しなさい。

【出典】 T. S. Eliot, 'Journey of the Magi', *T. S. Eliot: The Complete Poems and Plays* (Faber and Faber, 2004), p. 103, l. 1- p. 104, l. 12

4. 次の日本語の文章を英語に訳しなさい。

※著作権に配慮し、問題文は省略します。

【出典】 福屋利信『ロックンロールからロックへ その文化変容の軌跡』。
(東京：近代文藝社 2012). 58頁15行～59頁2行.

5. 次のフランス語の文章を日本語に訳しなさい。

※著作権に配慮し、問題文は省略します。

【出典：André Comte-Sponville, *Le Plaisir de penser. Une introduction à la philosophie*, La Librairie Vuibert, 2015, p. 23, l. 13 – p. 24, l. 2】

平成31（2019）年度

大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題

文化表現論専攻 フランス文学専門分野 筆記試験

[問題用紙は2枚あります。]

問1 次は、ユルスナール『ハドリアヌス帝の回想』の一部である。全文を日本語に訳しなさい。

【問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

出典：Marguerite Yourcenar, *Mémoires d'Hadrien* (1951), in *id.*, *Oeuvres romanesques*, Paris, Gallimard, « Pléiade », 1982, p. 304, l. 27 – p. 305, l. 7】

注) portefaix : 担ぎ人夫 granit : 花崗岩

éboulement : 地滑り veine : 鉱脈

問2 次の間にフランス語で答えなさい。

Le « je » dans les œuvres littéraires représente-t-il l'auteur ? Appuyez-vous sur un ou des exemples précis.

問3 【外国語（英語）筆記試験】 下線部（1）（2）をそれぞれ日本語に訳しなさい。

【問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

出典：Sam Atkinson et al. (ed), *The Sociology Book* (Penguin Random House, 2015), p. 298, l. 1-20, p. 299, l. 1-7】

平成三一(二〇一九)年度

大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題
文化表現論事攻 国語学専門分野 筆記試験 「問題用紙は四枚あります。」

□ 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えてなさい。(1)の問題について解答用紙一枚を用い、縦書きでまとめて(1)(2)

今は昔、河原院は融の左大臣の家なり。みち

尽して住み給ひける。大臣失せて後、宇多院（注一）には奉りたるなり。①延喜の御門たびたび行幸ありけり。

まだ院住ませ給ひける折に、夜中ばかりに、西の対の邊籠（注2）をあけて、そよめきて人の参るやうに思われければ、見させ給くば、ひの装束（注3）うるはしんしたる人の太刀はさき、笏取りて、二間ばかり退きて、かしりまつてゐたり。「あれは誰ぞ」と問はせ給くば、「ハリの主に候る翁なり」と申す。「融の大臣か」と問はせ給くば、「しかに候る」と申す。「わはなんぞ」と仰せらるれば、「②家なれば住み候るに」おはしますがかたじけなく所歎く候るなり。いかが仕るべからん」と申せば、「それはうといと異様の事なり。③故大臣の子孫の、我に取らせたれば、住むにこそあれ。わが押し取りてゐたならばこそあらめ、れも知らず、いかにかくは恨むるぞ」と高やかに仰せられければ、かく消つやうに失せぬ。

その折の人々、「なほ御門は④かたじこねはします者なり。ただの人はその大臣にあひて、やめうにするよかにはらひてやめや」とぞいひける。

〔宇治拾遺物語〕

¹ 注 宇多院 宇多上皇のこと。

^{注2} 塗籠　周囲を壁で塗り込め、妻戸で出入りする部屋。寝室や物置として用いた。

^{注3} ひの装束 公事の際の正装である束帯姿。

問一 Aの部分の本文(二行分)を翻字しなさい。なお、改行は原文に従うこと。

問二 傍線部①「延喜の御門」について知るとどうを述べなさい。

問二 傍縁部②を現代語訳しなさい。

問四 傍線部③を現代語訳しなさい。

問五 僕縁部④「かたごとにおはしごす者」とはどういう意味だと考えられるか、理由とともに答えを述べなさい。

(1枚目/四枚中)

〔二〕次の文章は、シェークスピア原作「ジュリアス・シーザー」を坪内逍遙が邦訳した『自由太刀餘波鏡錄（じゆうのたちがたりのきれあらわし）』（明治十七（一八八四）年）より、「附言」および本文の第一幕第二場冒頭部の引用です。これを読んで、後の間に答えて下さい。（この問題について解答用紙一枚を用い、縦書きにする下さい）

附 言

原本はもと臺帳の粗なる者に似てたゞ臺辭のみを用ひて
縁りなしする者なれば所謂戯曲にあらず、この院本とは
全く體裁を異にしたる者なるを今此國の人爲めに可
多情あるべし見ん人これを見せよ
全文意昧の通し易きを専要とし淨留理にてそめ易き所は
之にしたがひ臺辭にして解し易き所と又之に從ふ蓋し原本
乃意を失はざらんを力むるのみ原本此國の梨園子弟に
興へて直ちに之を演戲せんとにはあらず具限の入院本
規矩に戻れるを笑ふ勿れ原本の意は成るべく失はざら
んを力むるといへども中には彼我思想の異なるまゝにい
かやうにも譯しかたき條なきにあらず、それらは譯者の意
匠をもててささらに取捨し又は骨を換へるものあり、かく
る類こと滑稽諧謔の條下に多情し原本と比べ見ん人か
づから譯者の當惑を察し賜はん
篇中の人名の眞名をもて填められとも只見出しに便なら
んを要するのみされ共はる所謂湯桶讀なるもあり萬葉訓に似
たるものあり幸に登ひる勿れ

逍遙遊人なるす

注 院本……淨瑠璃の詞章全編を刊行したもの。丸本。 真眼の人……眞識のある人。

(一枚目/四枚中)

それものにて決なじて走は類競馬會當時羅馬競走の馬を輸贏を定めたり競行少士貴人等は壯士なる者をもてりて疾體に罹る。

第一場 第二場 羅馬公園前乃場

あこは羅馬の公園前羅馬の國の大總裁ケイヤ不ジユリヤス御威差が、さしに猛き奔獣を攻滅して凱旋ひ折又あひたる吉例の競走を遊覽せんと最愛の夫人輕春尼娃議官マカス舞藝多須マアク巻兎尼加須可軒志亞須支施者等を前後左右に従へて四方に聞ゆる道樂の響の中よしづくと數萬乃羅馬人民を眼下に見下し練りてゆく威風の程や、上もあき、獅威差やを立停り獅輕春尼娃と鶴の一聲加須可ひ心得大音又加獅威差殿下的御發語あるぞ暫し鳴物をやめ候へシシット乃聲令の聲諸共ふ肅然より獅威差は優然と獅イヤ喻輕春尼娃輕ハツ獅ホ申聞をハ餘乃義にあらず、予今志を宇内み得て、百事意の如くなりと雖も、只憾らくは不幸にして、尙ほ一人の子を得る能はず、然るに予督て老長に聞たるに世に石婦と稱する婦人を走競に壯士輩が携へ用ふる革紐を、肌に觸るれば疑なく必ず懷妊なをとかや、幸ひ只今公園にて神へ手向の競走を巻兎尼グ勵むる間だ其方も職場に立出て、彼れが身近う立て居やれ、コリヤ巻兎心得たるかとありければ、巻兎尼頭を上げ巻ハ、畏つて御座り外る、今海内に御威光輝を天下に敵なく神にひとしき、獅威差殿の御詫とあらば、たゞへいかなる事なしとも、誰か違背仕らんことをして御座り升る。

問一 「附言」の二重傍線部「湯桶讀」とはどのようなものか、右の本文から例をあげて説明しなさい。そのうえで、国語史における湯桶読みの歴史を記しなさい。

問二 「附言」の傍線部「院本體に譯せしかば」について、次の間に答えなさい。

(一) 本文を読み、院本と類似する点を文体の面から指摘しなさい。

(二) 本資料の国語史上の位置づけを説明しなさい。

問三 「附言」に示されている翻訳の基本方針を簡潔にまとめなさい。

三 次の間にに答えてなさい。(この問題について解答用紙一枚を用い、縦書きをするといふ)

問一 次の各項について、知るといふを述べなさい。

- (1) 自敬表現 (2) 読仮名 (3) 古活字版 (4) 僕字古今通例全書 (5) アクセント語類

問二 次の文章は『秋やがし心の内とし』と題する作品の一節である。こので使用されている言葉について、この時代の、どの地方におけるものであるのかなどについて、特徴的なことがらを中心に説明しなさい。

口先ばかりは世事のよし内義

おだかわん ゆうぐ御井のやくみりのけんくわがもてねいでだがエ ハイヤあれやうのあかエ モフヘそればがらんりんやくナ わだじらわはしふてらたでエ ヘアレハゆのひのからおりつたのテ
によつばがあのやうにこもだらうわせんわせらたてるはうでエナ もやだねみりんらやめのはどりで
もみなやイリコラリヨドケンでエナ モフリんわわむねがけんにしておかんと もんじやねうへし
れてほんせはれいわらひでエ わだじらつるせんがにひ日ひ掛けてきてわがんとわがゆせんでエ
まだれまでりんせんりんしだりどがなには ヘアもうでエナ ほんまにイナ (中略) まア面

のだくにりんがやつにだまされて来てこつかへ節季になると私にりんせりばかりはがり言しきれてなん

じやがしこうあにじや 是では未だつまらぬとあんじていたのにヨハアリんがれせしやアタいま
し

平成31（2019）年度

大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題
文化表現論専攻 日本語学専門分野 筆記試験

[問題用紙は4枚あります。]

[1] 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

Schegloff, E. A., Ochs, E. & Thompson, S. A. (1996). Introduction. In E. Ochs, E. A. Schegloff & S. A. Thompson (Eds.) *Interaction and grammar* (pp.1-51). Cambridge: Cambridge University Press.

(同書8ページ13行目から11ページ14行目まで)

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

Schegloff, E. A., Ochs, E. & Thompson, S. A. (1996). Introduction. In E. Ochs, E. A. Schegloff & S. A. Thompson (Eds.) *Interaction and grammar* (pp. 1-51). Cambridge: Cambridge University Press.

(同書 8 ページ 13 行目から 11 ページ 14 行目まで)

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

Schegloff, E. A., Ochs, E. & Thompson, S. A. (1996). Introduction. In E. Ochs, E. A. Schegloff & S. A. Thompson (Eds.) *Interaction and grammar* (pp.1-51). Cambridge: Cambridge University Press.

(同書 8 ページ 13 行目から 11 ページ 14 行目まで)

出典：Schegloff, E. A., Ochs, E. & Thompson, S. A. (1996). Introduction. In E. Ochs, E. A. Schegloff & S. A. Thompson (Eds.) *Interaction and grammar* (pp.1-51). Cambridge: Cambridge University Press. (問題文は同書 8 ページ 13 行目から 11 ページ 14 行目まで。本文中の注 4 の内容は省略した)

問 1 下線部 (A) “It has been clear to all involved that this commitment has consistently stood in opposition to a view of language, and more particularly grammar, as an autonomous faculty of human cognition.” を日本語に訳しなさい。

問 2 下線部 (B) に “Within this broad conception of “functionalism,” a number of important contributions to our understanding of language as it functions in communication have emerged, most densely in four or five roughly demarcated areas of work.” とあるが、この「4つか5つの領域」とは何か、本文に即して、それぞれ簡潔にまとめなさい。

[2] 次の 12 項目のなかから 5 項目を選んで説明しなさい。

- (1) 字音形態素
- (2) ジップの法則
- (3) 主要部
- (4) 文法化
- (5) 国際音声字母 (International Phonetic Alphabet, IPA)
- (6) 精密コード
- (7) コミュニケーション・アコモデーション理論 (Communication Accommodation Theory, CAT)
- (8) 公用語
- (9) フィールドノート
- (10) プライベート・スピーチ
- (11) Goffman の産出フォーマット
- (12) 会話における修復

[3] あなたが今後研究しようとするテーマに関するキーワードを 5つ挙げ、それについて説明しなさい。

平成31（2019）年度
大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題
文化表現論専攻 英語学専門分野 筆記試験

[問題用紙は2枚です。]
(1枚目／2枚中)

★一題ごとに別の解答用紙を用い、問題番号を記入すること。

I. 次の英文を日本語に訳しなさい。

著作権に配慮して、本文は削除します。なお、出典は以下の通りです。

[出典：Cedric Boeckx, 2010, *Language in Cognition: Uncovering Mental Structures and the Rules Behind Them*. Wiley-Blackwell. p. 82, l. 1～17, 一部省略]

II. 次のドイツ語の文章を日本語に訳しなさい。

著作権に配慮して、本文は削除します。なお、出典は以下の通りです。

[出典: Sautter, Udo: *Die 101 wichtigsten Personen der Weltgeschichte*. München: Beck 2006, S.63, Z.1-19. 一部改変]

(2枚目／2枚中)

III. 次の項目の中から5つ選んで日本語で説明しなさい。

1. Structural ambiguity
2. Derivational and inflectional morphemes
3. Implicatures
4. Deixis (Deictic expressions)
5. Complementary distribution
6. Grammaticality
7. Function words
8. Open class
9. Head of a phrase
10. Inflection

IV. 次の文章の下線部を英語に訳しなさい。

著作権に配慮して、本文は削除します。なお、出典は以下の通りです。

[出典：高見健一 2011. 『受身と使役—その意味規則を探る—』開拓社. p.7, 1.26～p.8, 1.16.
一部省略]

V. 大学院入学後の研究計画について、英語で説明しなさい。字数制限はありません。

平成 31 (2019) 年度

大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題
文化表現論専攻 美学・文芸学専門分野 （美学受験分野） 筆記試験

[問題用紙は 2 枚です。]

以下のすべての問い合わせに日本語で答えなさい。

問 1 以下の項目のうち 3 つを選び、それぞれにつき 100 字程度で説明しなさい。[配点 21 点]

- | | |
|--------------|----------------|
| 1) 芸術の終焉 | 2) ミーメーシス |
| 3) ポスト・ドラマ演劇 | 4) ムックリ |
| 5) 龍門石窟 | 6) テオドール・ジェリコー |

問 2 自分の研究の問題関心を一言であらわすと、どんな語になりますか。その語のもとで論じられるべき重要な点について、分かりやすく説明しなさい。たとえば「崇高」「神経美学」「前衛陶芸」「景観デザイン」「映画批評」などがそうした語にあたります。問題関心をあらわす語ですので「ベンヤミン」といった固有名詞は避けてください。文章の長さは問いませんが、内容ごとに段落を分けて読みやすく書くこと。[配点 40 点]

問 3 別紙に掲げる英文を読んで、下線を付した疑問文に対する説得的で論理的な回答を行なさい。[配点 39 点]

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次の通りです。

Gordon Graham, "Aesthetic Empiricism and the Challenge of Fakes and Ready-mades", in Matthew Kieran (ed.) *Contemporary Debates in Aesthetics and the Philosophy of Art*, Blackwell 2006. [Kindle edition]

平成 31 (2019) 年度

大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題

文化表現論専攻 美学・文芸学 専門分野（文芸学 受験分野）筆記試験

〔問題用紙は 3 枚あります〕

問 1 以下の項目のうち 3 つを選び、それぞれにつき 100 字程度で説明しなさい。〔配点 21 点〕

- | | |
|--------------|----------------|
| 1) 芸術の終焉 | 2) ミーメーシス |
| 3) ポスト・ドラマ演劇 | 4) ムックリ |
| 5) 龍門石窟 | 6) テオドール・ジェリコー |

問 2 別紙 1 で示した英文は、D. C. Feeney, *The Gods in Epic : Poets and Critics of the Classical Tradition*, Clarendon Press, Oxford, 1991, p. 1, l. 5-21 である。この英文を日本語に訳しなさい。〔配点 39 点〕（別紙 1 は著作権のため省略）

問 3 別紙 2 で示した文章は、岡道男『ぶどう酒色の海』岩波書店、2005 年、p. 198, l. 15-16 – p. 199, l. 1-12 からの一節である。これに関連し、以下の設間に答えなさい。（別紙 2 は著作権のため省略）

設問 1 ギリシア文学を研究するにあたりどのような視点で進めていくべきかを、あなた自身の問題意識に基づき、別紙 2 の文章と適宜関連させて具体的に論じなさい。〔配点 20 点〕

設問 2 ギリシア神話の解釈についてどのような立場を探るかを、あなた自身の問題意識に基づき、別紙 2 の文章と適宜関連させて具体的に論じなさい。〔配点 20 点〕

平成 31 (2019) 年度

大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）

入学者選抜試験問題

文化表現論専攻 音楽学・演劇学 専門分野（音楽学 受験分野）筆記試験

[問題用紙は 3 枚あります]

(1 枚目 / 3 枚中)

問 1 次の項目のうち 3 つを選び、それぞれにつき 100 字程度で説明しなさい。[配点 21 点]

- | | |
|--------------|----------------|
| 1) 芸術の終焉 | 2) ミーメーシス |
| 3) ポスト・ドラマ演劇 | 4) ムックリ |
| 5) 龍門石窟 | 6) テオドール・ジェリコー |

問 2 自分の研究テーマにかかわる研究動向あるいは方法論を 1 つ挙げ、複数の参考文献を用いて説明しなさい。その際、日本語以外の言語で書かれた文献を一つ以上含めること。

[配点 30 点]

(2枚目/3枚中)

問3 (1) 次の文章を日本語訳しなさい。[配点25点] (出典 László Somfai,"Critical Edition with or without Notes for the Performer", *Studia Musicologica* Vol.53, No.1-3, 2012, p.113, l.1- p.114, l.5) 【引用文は著作権に配慮して省略】

(3枚目/3枚中)

(2) 次の文章を読んで、あなたの見解を述べなさい。 [配点 24 点] （出典 大友良英『学校で教えてくれない音楽』、2014 年、岩波新書、p.6, l.8-p.7,l.12）【引用文は著作権に配慮して省略】

平成31（2019）年度
大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題
文化表現論専攻 音楽学・演劇学専門分野（演劇学受験分野）筆記試験

[問題用紙は2枚です。]
(1枚目／2枚中)

問1 次の項目のうち3つを選び、それぞれにつき100字程度の日本語で説明しなさい。

- | | |
|--------------|----------------|
| 1) 芸術の終焉 | 2) ミーメーシス |
| 3) ポスト・ドラマ演劇 | 4) ムックリ |
| 5) 龍門石窟 | 6) テオドール・ジェリコー |

問2 次の3つの項目全てについて、それぞれ100字程度の日本語で説明しなさい。

- 1)『仮名手本忠臣蔵』 2) 初世豊竹若太夫 3)『近代能楽集』

問3 問題用紙2枚目の英文は、Richard Schechner, *Between Theatre and Anthropology*, University of Pennsylvania Press, 1985. の一節で、「Restored behavior」について説明している文章です。この文章を読んで以下の設問に答えなさい。

設問1) 下線部(A)を日本語に訳しなさい。

設問2) この文章で論じられている「Restored behavior」とはどのようなものか、簡単に日本語で要約しなさい。またそれが演劇を考察することにとってどのような有効性を持つのかについても述べなさい。

問4 日本の新劇における欧米戯曲の翻訳上演についての問題点を以下の5つの語をすべて使って日本語で説明しなさい。

演劇改良会、森鷗外、チエーホフ、築地小劇場、小山内薫

(2枚目／2枚中)

問題文は、著者の著作権等に配慮し、省略します。なお、出典は次のとおりです。

Richard Schechner, *Between Theatre and Anthropology*, University of Pennsylvania Press, 1985, p.35,l.13—p.36, l.31

平成31（2019）年度

大阪大学大学院文学研究科（博士前期課程／一般選抜・春期試験）入学者選抜試験問題

文化表現論専攻 美術史学専門分野（日本・東洋美術史受験分野）筆記試験

[問題用紙は別紙を含め3枚あります。]

問1 以下の項目のうち3つを選び、それぞれ100字程度で説明しなさい。

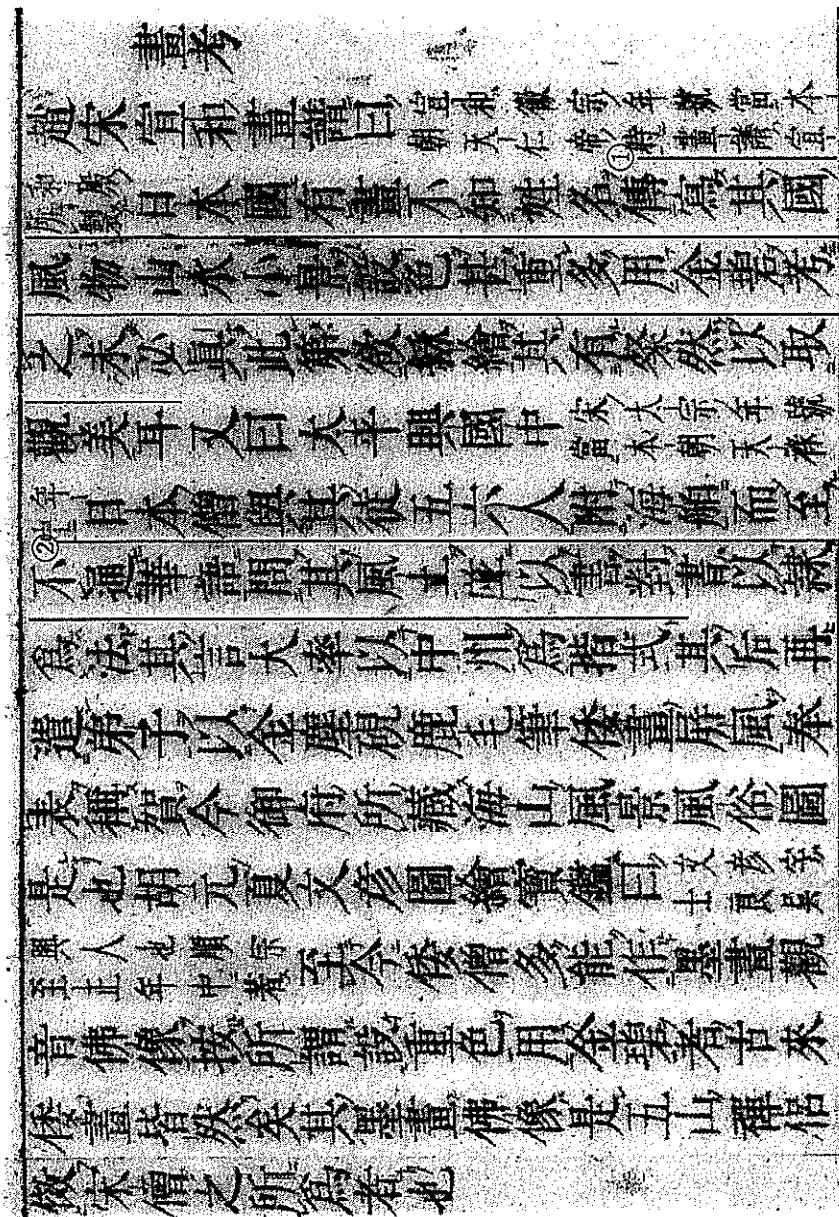
- 1) 芸術の終焉
- 2) ミーメーシス
- 3) ポスト・ドラマ演劇
- 4) ムックリ
- 5) 龍門石窟
- 6) テオドール・ジェリコー

問2 別紙1の問題について答えなさい。

問3 別紙2の図を800字程度でディスクリプションしたうえで、あなたが考
えるこの絵の魅力について述べなさい。

別紙1

問題 次の文は狩野永納撰『本朝画史』巻第一からの抜粋です。これについて後の設問に答えなさい。



語注

宣和畫譜 宋徽宗の宣和内府に所蔵していた書画を時代別に分類し、品評を加えた書物。

宣和 一一九〇二五年
天仁 鳥羽天皇の年号
第 只 (ただ)

大平興國 九七六～九八三年
天保 円融天皇の年号

大率 概ね
楷式 手本

圖繪寶鑑 元の夏文彦が撰した三国～元時代の画人評。日本には室町時代に舶載。

至正 一二四一～六七年

設問一 傍線部①を送り仮名に注意しながら書き下しなさい。

設問二 傍線部②を現代日本語に直しなさい。

設問三 「圖繪寶鑑」は日本の絵についてどのように述べているか答えなさい。

図（土田麦僊筆〈舞妓林泉〉）は著作権等に配慮し、省略します。